S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

2012年　2月　15日

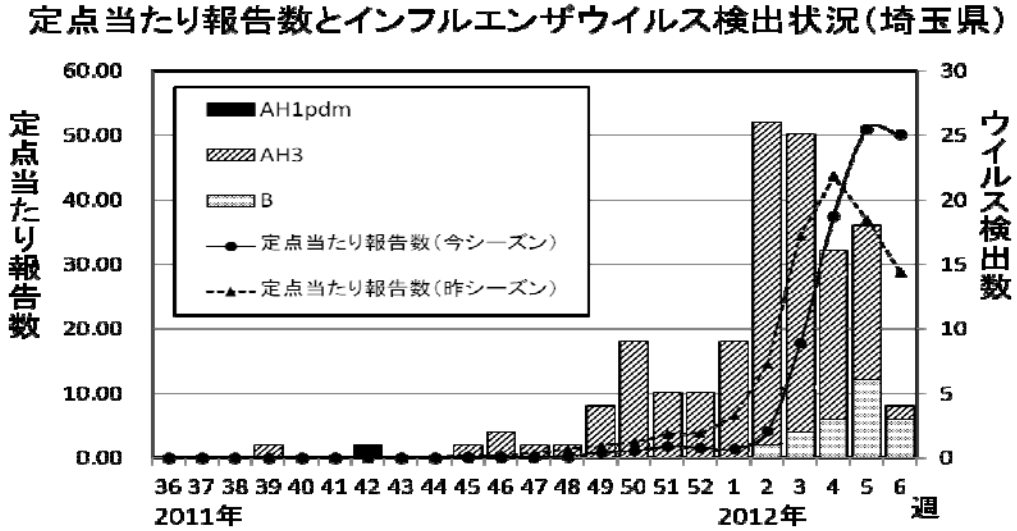
今冬のインフルエンザ

（１）　定点当たり報告数の推移

今シーズンのインフルエンザは、2012 年に入ってから本格的な流行を迎えています。定点当たり報告数は第 2 週から急上昇し、第 5 週には 50.94 に達して昨年のピーク(43.66)を超えました（下図参照）。現在、全国的にも流行の最盛期を迎えつつあり、引き続き今後の動向を慎重に監視する必要があります。

（２）　ウイルス検出状況

2012 年第 6 週までに、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで検出されたウイルスは、(H1N1) 2009 ウイルス(AH1pdm)が 1 件、A 香港(AH3)型が 112 件、B 型が 15 件です（下図）。現在までの流行ウイルスは A 香港型であり、全国的にも検出ウイルスの大多数を占めています。加えて 2012 年に入ってから B 型の検出も目立ってきており、今後の B 型の流行状況にも注意が必要です。



（３）　インフルエンザワクチンについて

インフルエンザワクチンは、前年までの流行ウイルスの抗原性や人々の抗体保有状況等を考慮して、使用するウイルス株が選定されます。近年のワクチンには A 型 2 種類と B 型 1 種類のウイルス抗原が含まれており、今シーズン用ワクチンには、A/California/7/2009（(H1N1) 2009 型）、A/Victoria/210/2009（A 香港型）、及び B/Brisbane/60/2008 の 3 株が用いられています。

ワクチンに使用されているウイルス株と、今冬に実際流行しているインフルエンザウイルスとの抗原性の相違については、国立感染症研究所が全国から分離ウイルスを収集して分析を進めているところです。

病原体定点の先生方には、引き続き検体採取の御協力をよろしくお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ（http://idsc.nih.go.jp/index-j.html）でご覧になれます。